Trinity

キズナエピソード\_大鳥丹\_03

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０

------------------------------------------

//ヴィジュアルノベル形式開始

この日は、昼から俺の家に丹が遊びに来ていた。

丹は終始ニコニコしながら、俺の部屋で映画を見たり、

漫画を読んだりしてダラダラと過ごしていた。

しかし、夜が近づくに連れ、

その笑顔にも陰りが見えるようになっていった――

//暗転

//背景:とびお自室(夜)

［丹］

「……とびおくん、あの、

今日……よければ泊めてもらえませんか」

［とびお］

「ああ、別にいいよ」

［丹］

「！

ありがとう……ございます」

［とびお］

「…………」

［丹］

「……何も聞かないんですか？」

［とびお］

「丹がほんとに聞いて欲しいなら聞くよ」

［丹］

「そうですか……」

［とびお］

「うん」

［丹］

「…………」

//◆R版の場合ここにRシーン挿入

//暗転

［丹］

「とびおくん、ベッドで寝なくて平気ですか？」

［とびお］

「うん、俺床でもぐっすり寝れるタイプだし、

気にしなくていいよ」

［丹］

「そう……、

あの……前に言った私の家の話、

覚えてますか？」

［とびお］

「あぁ、覚えてるよ」

［丹］

「……私には双子の妹がいるんです。

蒼といって、私と逆で、すごく男らしい子で……」

［丹］

「実は、私たち双子なのに、父親が違うんです……」

[丹]

「母はいつも笑顔を絶やさない優しい人で、

私の憧れなのですけど、そんな母が過去に、

一度だけ違う男性と過ちを犯してしまった……」

[丹]

「そのたった一度の過ちで

別々の父親を持つ双子が生まれた……

ふふっ、自分事ながら、残酷な話ですよね……」

［丹］

「そのことを家族全員が

心のどこかで引きずっていて、

いつも家中にいびつな空気が流れてるんです。」

［丹］

「…………今日、実は私と蒼の誕生日なんです」

［とびお］

「……！」

［丹］

「父と母は祝おうとしてくれるんですけど、

笑顔が、無理して笑っている感じで……」

［丹］

「無理して優しくされても、

その優しさがかえって痛いというか……

余計に辛くなる一方で……」

［丹］

「だから、この日は毎年家にいたくないんです」

［丹］

「……

……こんな話を最後まで聞いてくれて、

ありがとうございます」

［とびお］

「……ただ聞いてただけだよ」

［丹］

「ん……とびおくんは不思議……

誰にも話したこと……無かったのに…………」

//安心してだんだん眠ってしまう

［とびお］

「…………明日さ……」

［丹］

「すぅー。すぅー……」

［とびお］

「……丹？

…………おやすみ」

［とびお］

丹は話し終えて寝てしまっていた。

今まで抱えてたものを話せてすっきりしたのか、

その寝顔は穏やかで、意外なほどに可愛らしかった。

[とびお]

そっと、掛け布団をかけてあげると、

丹は少し微笑みを浮かべた。

そして、また寝息を立てて眠りについた。

//ADV形式終了

//3話終了